【議事】計 10

⑵ 宇宙開発に関する長期的な計画の構成について

文科省の池原参事官が資料 10-2-1（計画部会の報告書目次と今後の審議予定）を説明し、再び活発な質疑応答が行われた。

青江：こういった目次、構成を基に、中身に少し持ち込んだもの「骨子」を次回ご議論いただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

鶴田：宇宙探査はどういう書きぶりで持論を書くのか。宇宙科学は幅を持っていると思うが、宇宙探査は具体的にどういう事を、どういう格好で、どういう国際協力の下にやろうというのか。科学のカテゴリーでやっていくとそれなりに○○[1]なのですが、探査というと○○というか、母体がはっきり見えない。

青江：科学については深める必要があるということで、この計画部会の下に、ワーキンググループを持ってご議論いただき、探査についてはこの計画部会そのものでご議論いただいた。科学の WG の議論も踏まえつつ、この場で探査についての議論をやった。その場での議論をベースに、取り敢えず事務局側で骨子というものを、先ず筆を執っていただく。そして、原案をこの場にお示し致します。それを基に次回ご議論くださいということになろうかと思う。

鶴田：そうすると、例えば関連学会だとか、宇宙科学の研究者と、国際協力の専門家、そういう人たちが集まって、議論するということは無いのか。

青江：そう云う、何か仕組みを作って議論をして、此れを作り上げるようなプロセスを踏まなくても、科学 WG の議論、この場での議論を通じ、大体の方向性は提示できるのではないかと思う。その上で、後はヨンチョウンと言いましょうか。

鶴田：心配しているのは、例えば月・惑星探査という場合、月の有人に主力を置いて国際協力を考えるのか、或いは（聞こえない）、或いは（聞こえない）世界の標準型というのか、その辺りが余り読みきれていない。モワッとしている。

池原：それは第 8 回計画部会での宇宙科学ワーキンググループの報告と、此処で行なわれた JAXA から宇宙探査についてのプレゼンテーションとがあった。探査の国際協力のあり方としては、自律性を確保しつつやっていくという方針とか、有人とかそういう話については、先ずは科学的要求、技術的要求に基づいた形での宇宙探査をやっていくということで、ただ、有人に向けた要素的な技術についても、蓄積はしていくというようなことでプレゼンテーションがあって、ご議論いただけると承知している。

青江：多分、探査について何処まで踏み込んで今度の長期計画を書いていくのかというと、「月、火星を展望して具体的に何を」と云うことについて未整理だと思う。未整理は未整理であるから、それをプレゼンスするような中身までは踏み込まないのであろう。

鶴田：獲得目標みたいなものでしょうか。難しいですね。10 年でど

---

[1] この議論で、多くのキーワードが聞き取れなかった。読者が理解できないであろうことを申し訳なく思う。基本的に、執行者（文科省・宇宙開発委員会）が、「国際探査活動は、諸外国の動向次第で決まる。」と考え、「外国の動向がはっきりしない内に決めたくない。」と思っている為であろう。ただ、「具体的なプロジェクトを決める時に相談するコミュニティを決めておく。」ことは出来るのではないか。

れだけの資源を使って、(聞こえない)でないと、中々大きな活動になるので、後で行なうパブリックコメントでも納得してもらえるものではない。今、皆が案を持ってはいないと思う。何かの○○を掴むと、○○したままでやっていってしまうのではないか。そういう心配がある。

青江：○○TT ベースの話は、これは○○で、それ以外に具体的な話はどうするか、探査のガイドラインというのは、私はそれはやらざるを得ないと思う。○○は経済効果等々を一応データとして了解しているところであるが、それを言うか言わないかである。それはまだ、資料はどこかにあるかもしれませんが、まだ余り議論されていないし、タブーでない形でやって行きたいとしては。

中須賀：今の、鶴田先生のご意見を私が理解したところでは、鶴田先生は宇宙研でやられていて、宇宙科学のコミュニティが次にやるものを決めてきた経験があり、限られた予算の中で科学者による徹底的な議論をして決めてきた。それに対して、月・惑星はもう少し、純粋科学だけではない他の要素を入れた中で決めていかなければならないが、それを議論するコミュニティは何処なのかという質問ではないかと思う。

鶴田：それをどういう風に考えるかということである。

中須賀：其処の部分が、確かに私も何処がそれを○○しないのか、○○にはならない。

青江：この時期、このページは、今、仰ったようなところまで踏み込んだ形で、計画を作っていくのかどうかということだと思う。探査についてはスタンスというか、取り組むに当たっての姿勢というか、そのようなことを中心にご議論いただいたところである。其処のところを固めておいた上で、これから先に色々な動きが出てくるとき、そう具体的に対応していくのかは、軸足さえしっかりしていれば良いと思う。そういう方法を、時期的に言って、取らなければならないのかと思う。此れだけの大きなものについては、どのような合意形成のプロセスをたどるのかは少し考え処ではないかという気がする。この計画部会も一つの場ではあるかと思うが、時期というものがもう一つあろうかと思う。今の時期の計画部会はタイミングとして良くないと思う。いずれにしても、骨子の中で、何処まで書き込むかという辺りを踏まえていただいて、ご議論を、今のご指摘をもう一度頂きたいと思う。

松尾：今、部会長の仰ったことと余り違わないが、この場合、コミュニティでどういうコメントを言い、どうやって良いか分からない。○○は、この件についての代わりを出来るのではないか、と僕は思う。おそらく手に負えない部分は、実質的な側面、○○の側面で、此れはワーキンググループで、ある程度スケッチ頂いているから、此処はやはり、最初の○○で一致しているかもしれない。部会長そういうことです。

青江：それにしても、探査というものが此れだけの国際情勢の中で、どうもって行くのかというのは大きな課題である。間違わないようにしなければいけないと思う。多くの方のコンセンサスが得られるような形の、力が結集できる形が、非常に大きなポイントだと思う。

○○：出す、出さないは、もう一度議論するという風に明示してください。

池原：国際探査計画については、各国の動向等もありますので、そういう状況も見つつ、また、○○のことは○○のそれを反映させて行きたいと考えております。